



宇宙教育研究所が設立されて3年。当研究所では国内・国外を問わず,多くの活動を実施してきました。これまで大学宇宙工学コンソーシアム (UN ISEC)が取り組んできた宇宙教育を支える現場としての活動に従事し,内容をさらに発展させる活動に取り組んできました。また定義も曖昧であった「宇宙教育」の体系化と意味づけを行い,国家戦略の中での位置づけを明確化する活動を行ってきました。

このような活動は政府でも高く評価されており,昨年末に相次いで発表された内閣府宇宙戦略室の取りまとめた宇宙基本計画や,文部科学省の宇宙分野の推進方策にも反映されています。従来は夢を与える教育としての宇宙,最先端研究開発としての宇宙のみが教育的課題として取り上げられていましたが,これらの新方針においてはプロジェクト体験型教育の意義や,国内外に展開する意義等に関しても記述され,特に文部科学省の資料では,当研究所の取組が特筆事項として取り上げられています。これらの事は,我々の3年間の活動が決して間違っていなかったことを示すと共に,今後の更なる発展が求められていると考えております。

学外に広く開かれた活動を行っている一方,我々の活動に対する理解を学内・学外に深めていただく活動に関しては,まだまだ不十分であると考えております。本紀要はこのような観点から,我々の活動内容を知っていただきたいと企画し,取りまとめました。皆様の御理解の一助と成れば幸いです。

戦後六十余年。安定した社会の中で,継続的な発展を遂げてきた我が国においては,未来は既に定まっており,エスカレーターに乗るように誘導されるものとの考え方を持った人が多くなってきているように感じます。しかし先人も述べているように,我々の先には道はありません。我々が通った後にのみ,道が出来ます。常に時代を切り開く先駆者として,恍惚と不安を胸に懐きながら,我々の信じる「正しい」あるべき未来を目指し,今後も活動を続けていきたいと思います。所員一同,そのための努力を続けていくつもりです。

もちろん,当研究所の活動は単独で成立しているわけではありません。国内外の多くの大学・研究機関,教員の方々,また高校の先生方,民間企業の方々に御協力いただき,これまで進んでくることが出来ました。多くの協力者の皆様に心からお礼を申し上げるとともに,今後の更なる発展に向けて,変わらぬ御協力をお願い申しあげます。

我々の活動が,新しい日本の,世界の一歩を支える基盤と成ることを,心から願っております。

宇宙教育研究所 所長 秋山 演亮